

# 自由南アフリカの声

*Voice of Free South Africa*

2006年6月

No. 41

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

## 2006年6月までの報告と予定

- 1月 移動図書館車4台が南アのKZN州へ到着
- 1月～5月 月1回、本の梱包作業
- 1月 東京都練馬区光が丘より移動図書館を引取る
- 2月 埼玉県入間市と宮代町より移動図書館を引取る
- 2月 西ケープ州に移動図書館車が到着
- 4月 大阪府和泉市と横浜市中心より移動図書館を引取る
- 5月 南ア全国読書プログラム開始式典 教育大臣臨席
- 6/26:AJF 主催『平林薫を囲む会』 7/5:NEC ソフト共催『TAAA 南ア活動報告会』

## 内容

2005年度の移動図書館車の報告を見て (久我祐子) . . .	2
南ア通信 1～5 (平林薫 武藤豊) . . . . .	4
TAAAと私 第2回 (野田千香子) . . . . .	8
会計報告 . . . . .	9
ある日の作業 (下谷房道) . . . . .	10
主な活動・イベントのお知らせ . . . . .	11
寄付・会費・本などを下さった方々 . . . . .	12



デベトン小学校の木陰で憩う子どもたち

# 2005年度の移動図書館車の報告を見て

久我 祐子

TAAAから送られた移動図書館は中央政府などが統括しているのではなく、現地のNGOや地方行政がそれぞれ工夫し、努力し、その地域の条件を考慮しながら、運行しています。原文英語の報告ファイルは、南ア各地がお互いに見る事ができるよう、各報告書をそれぞれの運行箇所を送りました。

運行者 (バスの愛称)	車両 開始年月	対象地域	対象学校数 生徒数	図書室がある 学校の数	生徒の読解 レベル	中途退学者の 割合	巡回頻度
ハウテン州 州教育省 (サンシャイン)	三菱 良好 1999年	ハウテン州	24校 12,198名	0校	非常に低い: 20% 低い: 50% 平均: 30%	回答なし	年4回 (各学期に1回)
ハウテン州 州教育省 (レインボウ)	日産 良好 2003年4月	レナシア	7校 4,845名	1校	平均: 40% 良い: 60%	回答なし	各学期に1回
MEI NGO (ザ・バス)	三菱 多少問題有 1997年1月	デベトン エトワトワ	42校 40,000名	0校	回答なし	回答なし	1学期に2度巡回 1年間に8回巡回
西ケープ州 州教育省 (-----)	いすゞ 良くない 2000年	カナランド地域 ズアール及び その近郊地域	8校 1,141名	0校	低い	30%	1週間に1回
西ケープ州 州教育省 (ブックバス)	日産 悪くは無い 2005年	ブレデンダール 9サーキット 及び周辺の 農地内の学校	13校 2,130名	0校	生徒・両親の多 くは非識字者。 図書館車を生 徒達は十分活 用している	20%	2週間に1回。貸出期 間延長を依頼するこ ともある。北部の学校 は、遠方なため、月に 1度しか訪問しない。
KZN州 州教育省 (タカラニ)	三菱 常時良好で はない 2001年	KZN州 ズールーランド マハラパティニ サーキット	14校 5,646名	5校	非常に低い	回答なし	各学期に1回
KZN州/NGO (モービルライブラリ)	いすゞ 良好 2004年8月	イナンダ	17校 9,500名	3校	良い	2~3%	各学期に2回 貸出と回収
エルギン (アマボエケ)	日産 良好 2002年	エルギン グラボウ	8校 2,680名	回答なし	回答なし	回答なし	2週間に1度

現在8台が南アの各地で運行されています。運行を待機しているものも数台あります。本の貸し出し方法は、教師が移動図書館から借りて、それを生徒が借りるという管理しやすいシステムをとっている団体が多いようです。低学年では絵本に人気があり学年があがるにつれ、授業用の教材、辞書、百科事典に人気が集まっています。ビデオ、知育玩具など、本以外の教材を運ぶ移動図書館車も多いようです。

MEI の三菱の移動図書館車は、TAAAが初めて南アに送ったもので、11年走り続けています。MEIはNGOならではの肌理の細かいサービスで、11年間地道に地元のニーズをくみ取りながら読書文化を根付かせようとがんばっています。2005年度も、すべての対象校に一度も中断されることなく運行しました。西ケープ州教育省のバスは、保守的な農園地域を走っています。生徒の親たちは、収穫のシーズンが終わると失業する季節農地労働者という厳しい地域です。学校が地域住民を招いて借りた本の読み聞かせをしたり、生徒が学校にいくチャンスがなかった親や祖父母に、本を読み聞かせたりしているなど、プロジェクトが学校だけでなくコミュニティー全体にサービスを施している報告が印象的でした。この表内の移動図書館の訪問学校数は133校で、対象生徒数合計は78,140人でした。(表作成:西村裕子)

一巡回に運ぶ冊数	1校が借りる平均冊数	需要が高く不足している本	スタッフ数	運営資金源	主な課題
800冊	85冊	絵本・小説・授業用の教材・辞書、百科事典・教師用の本	運転手:1名 貸出係:17名 情報スタッフ: 11名	*ゼネックス基金 (ほぼ、使い尽くした) *課の予算	①スタッフ不足 ②農地内の学校が他の学校と併合した。PCを使って貸し出しをすること。
300冊	30冊	絵本・授業用の教材・辞書、百科事典	ファシリテーター・ シニア司書・アシスタント:各1名	ゼネックス基金	車両の状態(前学期において)
3,500冊	150冊	絵本	運転手兼事務 司書:各1名 ボランティア:2名	セント・アンドリュース アウトリサーチ基金 及び寄付金	資金不足
1,500冊	大きい学校 250冊 小さい学校 80冊	絵本・小説 (バスは最新の本をストックしている)	2名の司書兼 運転手	ブレッドライン及び エンゲン基金より 年間80,000ランド	車両の状態
巡回ルートと学校の規模によって異なる	約50冊～ 100冊	辞書・地図・アフリカンス語の本、教材	書庫アシスタント: 2名 運転手:1名	いくつかの基金を得ているが、基金は科学・工学プロジェクト対象のものが多いので、奮闘している。	・資金不足・車両の状態 ・地域の学習/読書文化の育つのが遅い
1,000冊	10～150冊とばらつきがある	絵本・小説・授業用教材・情報誌・辞書、百科事典・ワークシート、ポスター、知育玩具、パズル	2名: 司書 メディアアドバイザー	KZN州教育省	資金不足・スタッフ不足・車両の状態
1,000冊	270冊	絵本・授業用の教材・情報誌・辞書、百科事典・詩	司書:1名 運転手:1名	ELITS (KZN州教育省内)	今のところ、問題は無い
回答なし	回答なし	回答なし	5名	エルギン学習基金 西ケープ州教育省	回答なし

## 南ア教育省“全国読書プログラム”記念式典

2006年5月8日、クワズルーナタール州のダーバンから南に約170キロ、東ケープ州との州境で、同プログラム開始の記念式典が行われた。会場のイジンゴロウェニ小学校は、生徒数 1137 名の学校だが、図書室の設備はない。マランガ校長は“この地域に政府の人がきて何かをしてくれたことなどありませんでした。今日の式典の会場に選ばれたことを光栄に思い、感謝しています”と話し、本が 100 冊入ったコーナーライブラリー用の棚を受け取った。今年到着した 4 台のバスが展示され、出席者たちがバスの中をのぞいたり、棚の本を手にしたりしていた。このような地域の学校にこそ、移動図書館車の巡回が有効であるということを出席者たちは痛感したと思う。

子供たちのズールーの伝統的なダンスやコーラス隊の歌はすばらしかった。ドラマの中で、“本を大切に扱おう”“汚い手で本を扱わない”などの“本の扱い方 10 か条”は、図書室が設置されたときのピア教育に最適だと思った。

パンドール教育大臣の到着後、国歌斉唱。日本大使館から伊藤代理大使があいさつ。蓮沼氏が移動図書館プロジェクトの現状と将来の計画について話された。続いてTAAA代表の野田さんからのメッセージを私が代読。パンドール大臣、KZN 州教育省 MEC のクロニエ女史、ELITS のシボンギレが野田さんからのメッセージを大変喜ばれた。TAAA代表のメッセージから、TAAA の活動方針と南アの子供たちへの思いが伝わったと思う。教育大臣のあいさつの中に、“今日では、あらゆる情報が簡単に手に入るようになってきている。しかし、本を読んで知識を身につけなければ、本当の意味で教養のある人間とはいえない”とあった。“何より読書を楽しむことが一番である”ことも強調され、日本政府や TAAA の支援と活動に対して、改めて感謝の言葉をいただいた。

会場に入る前、日本大使館の草の根支援金で井戸を設置したンバンビ高校を伊藤代理大使、ELET オグル代表と視察。井戸は有効に使われ、農業プロジェクトも軌道に乗っていて、コミュニティーの人々への力になっている。校長先生から、“何とかして図書室を開設したいので、どうかまた本の寄付をお願いします”と言われた。学校が今一番必要とするものが“図書室”である。ELET は TAAA から寄贈される本を利用して、“学校における図書室開設のためのワークショップ”を行ってきた。ELET-TAAA は、教育省よりずっと早く、学校への図書プログラムを行ってきたと言える。



パンドール教育大臣とクロニエCEO



会場の外に移動図書館車が展示された



式典のパンフレットには、教育省のロゴに並んで TAAA の文字が刻まれ、ウルンディで撮った移動図書館バスの写真も使われた。南アの図書教育に TAAA が果たしている役割の大きさを改めて感じた。最近の移動図書館プロジェクトの目覚ましい進展は、蓮沼氏の精力的な活動によるものだ。また、商船三井のご厚意なくしては、これほど多くの物資の移動は難しい。そして何より、メンバー、支援者の皆さんの支援と活動が、南アの教育に寄与し、少しずつだが着実に変化をもたらしていることをご報告したいと思う。式典はスタート地点だ。これから移動図書館車が十分に活用され、各学校に図書室が設置され、すべての子供たちが本にアクセスできるというゴールに到達するまで、各カウンターパートと協力して活動していこう、と気持ちを新たにした。

## 南ア通信 2 りっぱな私立学校

武藤 豊(TAAA 南ア在住)

今回訪れた学校は、ダーバン地区でも第1を争う先進校で私立学校。昨年来様々な活動で訪れた学校とは全く異なるもので、本当にすばらしい設備と教育環境に日本の教育水準以上のものを感じました。幾つもある音楽室や美術室、ダンスルームにアトリエ、そして LAN 完備のコンピュータールーム (Windows と Mac で別々に OA ルームあり、用途も OS 操作向け、グラフィックや画像編集専用の部屋もあり)。また、図書室もパソコンで蔵書検索や本の取り寄せ、インターネットコーナーや独自の教育プログラムがインストールされたパソコン。サッカー場やラグビー場、テニスコートが完備され、校内ビュッフェがあるサービスは、ただ、驚愕でした。

僅か半径50km圏内で、上記のような全てが揃った教育環境の学園、1学年何百人もいて敷地が教室で一杯のタウンシップの学校、ようやく電気水道が確保された郊外の学校、電気水道も無く、風をしのぐシェルターとして部屋があるだけの田舎の学校。この教育格差を目の当たりにして、とてもショックです。あまりの教育格差や不平等な環境は、この国の縮図と言っても過言でないと感じました。何とかしないと、とつくづく感じた1日でした。

ただ、子供たちの顔は、どこの学校でも一緒。会うと必ず挨拶してきますし、とても礼儀正しい。この点は南アフリカが一番誇れる部分でもあり、素晴らしい点であると思います。このような素晴らしい点をいつまでも継続していきたいし、引き伸ばす何かのサポートが出来ればと、心底感じました。



## 南ア通信 3 平林 薫 (写真の左)

### 海辺のウムズンベを訪ねる

ウムズンベのイナラ小学校を訪ねました。武藤さんと二人で CUTE! の連発でした。60人くらいの生徒でぱんぱんの教室の片隅にコーナーライブラリーを設置しています。これを設置したトリー先生は熱心な先生です。“私たちは限られたリソースの中でできる限りの努力をしています。子供たちには正しく導くことができる教師が必要です。子供たちが立派に育っていくか否かは、教師の責任です。”とっていました。

武藤さんとウムズンベ高校も訪問しました。サッカーボールは大変喜ばれました。マトリック(高校卒業資格試験)合格率が、このウムズンベ高校では、90%(全国平均70%)に上がったそうです。写真:イナラ小学校のトリー先生と子どもたち



南ア通信 4 5月6日

本と椅子をントオズマへ

平林 薫

ELETの農業プロジェクトで知り合ったボニサニ小学校のケケツォ元先生(今年退職したばかり)から、本と椅子が欲しいと去年から依頼を受けていたのですが、金曜日に寄贈することができました。学校はントオズマという、イナンダやクワマシュの近くのタウンシップ(ダーバンから1時間くらい)にあります。校舎は数年前に改築されてきれいになったのですが、中身が空っぽで、図書室もやっと形が整ったところで、これから本が必要となきなのでグッドタイミングでした。若いグバネ校長はケケツォ先生の教え子だったそうで、母校で校長をしています。今回の寄贈では先生方が大変喜んでくれて、本の利用についてフィードバックをしておっしゃっていました。

高校生向けの本(河合塾を通じて集まった本)も何箱か持ってきたので、隣の高校に寄贈するということです。また、グレードRも今年から開設され、椅子の寄贈もグッドタイミングでした。子供たちはエキサイトして、“シヤボンガ!(ありがとう)”と歌をうたってくれました。椅子を下さった方々(青葉ジャパンインターナショナルスクール)によりしくお伝えください。

**ボニサニ小学校の子どもたち「椅子をありがとう」**

**お隣の高校へ河合塾からの本を渡しました。**



南ア通信 5 5月22日 平林 薫

コーヒーベイに移動図書館車を!

5月18日から20日まで、東ケープ州(旧トランスカイ)、ワイルドコーストのコーヒーベイの学校を訪問してきました。マウント・パッカード校はグレード1から9の生徒数1047名、マダケニ校はグレードRから9までの616名の学校です。マウント・パッカード校は3年前に新しい校舎になり、図書室用のスペースもあるのですが、肝心の本と図書室開設のノウハウがありません。きれいな箱だけあって中身が充実していない印象を受けました。一方、マダケニ校は崩れそうな校舎で、職員室もなく、もちろん図書室も、新設のためのスペースもありません。グレードRは教室がないため、近くの民家(ハット)を借りて勉強しています。先生方の写

真(次ページ)の一番左がマシザメ女性プロジェクトの代表のノモンデさんです。彼女のプロジェクトでは女性たちがビーズアクセサリーや伝統的なドレス、バスケットなどを手作りして、国内外の市場で販売しています。通常このようなグループは、マネジメントとマーケティングの力がないため、なかなか持続させるのが難しいのですが、ケープタウンで勉強、仕事の経験のあるノモンデさんのリーダーシップの下、着実に顧客を増やしています。

ノモンデさんは主に芸術文化省と繋がりが深く、州教育省にもコンタクトがあり、バリンドレラ州知事も顔見知りです。移動図書館車の話をしたところ、ぜひ教育省と話をし準備を進めたいと前向きです。州の予算、その他いろいろと話し合わなければならぬことがあると思いますが、東ケープ州はこの地域から始められればと考えています。



コーヒーベイは大変美しいビーチで、波もよく、何人が波乗りをしていましたが、沖にシャークネットが入っていないため特に冬の時期はいわしを追ってサメが入ってくるので危険です。早朝、イルカの群れが波乗りをするのを見ました。地名の由来は、昔貨物船が難破しコーヒー豆の樽が流され、川沿いにコーヒーの木が生えていたのだそうです。また、昔ヨーロッパの船が難破して、助かった乗組員がこの海岸に上陸し、土地の女性たちとの間にできた子供たちの子孫がまだ多くいるそうです。とてもユニークな歴史を持つ地域です。



コーヒーベイのリーダー、ノモンデさん(左)



マダケニ校



マウントパッカード校



コーヒーベイのコミュニティ



追記(野田)

都市の中心でなくても、田舎でもそこにしっかりした核になる人がいて、準備態勢が整った所では、移動図書館車がこれまでも活躍しています。デベトンのNGO・MEIや西ケープ州のズアールやエルギンなどがそうです。ここコーヒーベイでも早く準備態勢が整って、移送図書館車が送れるといいですね。それまでは本だけを送っていきしたいと思います。

写真左: コーヒーベイのホールインザウォール

# TAAAと私

## 第2回

(1992年～1993年)

野田 千香子

### ユニス・コマネさんとの出会い

1992年6月に東京で開かれた新生南アに関するシンポジウムに講師として招かれたユニス・コマネさんはコミュニティのリーダーだった。ダイヤモンドで有名なキンバリー郊外で、生活指導や識字の講習をおこなっていた。アパルトヘイトの下では、特に女性は学校に行ける機会は少なく、ホームランド(アパルトヘイト時代、黒人が強制的に住まわされた生産性の少ないやせた土地)で、字が読めないまま成人になった人がたくさんいた。コマネさんは講習のために欲しいものとして、ミシン、アイロン、大工道具、調理道具、文具、識字のための英語の教科書など多くのものをあげた。

今は移動図書館車の収集等に駆け回っているTAAA副代表の浅見克則さんと相談の結果、コマネさん(写真)に、英語の中古の教科書を集めて送ることを約束した。この頃、「アジア・アフリカと共に歩む会」には今も中心メンバーの1人である下谷房道さんも参加していた。大学時代から反アパルトヘイト運動に加わってきた高校の歴史の先生である。



### 商船三井の方と出会う

このシンポジウムには、企業から商船三井の元副社長の柴山剛介さんも講師として参加されていた。アパルトヘイト時代に深く関わりの

あった企業の方がこのような席に見えるのは、過去に対する複雑な思いとこれから新しい南ア建設に貢献したいという個人的な気持ちを持たれての事と察せられた。この10ヶ月後に私は柴山さんに電話する事になったのである。

はじめの数ヶ月は、数箱の英語の本が集まり、郵便局から南アへ送っていた。しかし、あるとき、出版社から、絶版となった英語の小説類をトラック一杯いただくことになった。これでは郵送費が寄付金で賄いきれない。ANCの事務所代表のマツイーラさんが柴山さんを紹介してくれた。電話一本で、柴山さんからOKを得た。それ以来、10数年、本のコンテナ一海上輸送は無料で(輸出のための整備費、税関料、港湾使用料、引取り料などは別)、移動図書館は格安で送り続けてくださっている。商船三井を通して送った本はこの10数年で30万冊を越え、車は20台になった。

### スウェーデンを訪れる

ANC事務所に週一回、手伝いに行っていたある日、ストックホルムのNGOで10日間、研修を受け入れてくれる機会のあることを知り、すぐに申し込んだ。1992年の8月であった。研修の受け入れ先は、エマウスという古着を大規模に扱って途上国援助をしているNGOであった。14年前、日本は、南アでも名誉白人という不名誉な呼び名も頂戴したことのある経済大国であった。私は北欧の福祉大国、援助大国の実情を知りたいと思った。スウェーデンでは、税金の1%を途上国への支援に使い、開発教育やボランティア団体への助成金制度も整い、支援に対する市民の意識も高かった。広い歩道に窓のない赤い小屋がある。郵便ポストのような大きな口があって、人々はここに不要になった衣類を入れる。エマウスのスタッフがときどき、赤い小屋を回って、衣類を回収し、大きな建物の作業場へ持っていく。衣類がぎっ



**2005年度** (2005年4月～2006年3月)  
**「アジア・アフリカと共に歩む会」会計報告**

収入	支出
前年度繰越金 3,328,188	
	本輸送費 104,687
寄付金 2,063,963	図書館車諸経費 1,024,270
物品販売 0	通信費 86,407
会費 303,000	交通費 20,560
内訳: (※ 会員 158,000)	印刷費 23,333
(※ 賛助会員 145,000)	事務費 111,552
	現地連絡員活動費 1,000,803
助成金 1,500,000	現地 NGO 支援金支出 825,261
	内訳: (※MEI 支援 400,000)
その他収入 266,000	(※HIV/AIDS Project 支援 125,261)
内訳: (※委託事業収入 266,000)	(※ELET 支援 300,000)
	現地視察費 96,154
預金利子 49	その他費用 19,859
	雑費 0
	次年度繰越金 4,148,314
7,461,200	7,461,200

上記の通り報告いたします

2006年3月31日

会計

安部弥生

会計監査

西村裕子

しり詰まったコンテナやフォークリフトがある。一枚一枚衣類を点検し分類する仕事を手伝った。別の日には、ストックホルムの中心地にあるエマウスの経営する中古衣類店（1階はアクセサリ類、地下が衣類とクラフト類）で、店員として仕事をした。集めた衣類のうち国内で売れそうなものは販売し、支援金や活動費として使い、その他は直接、アフリカや東南アジアへ支援物資として送っていた。

衣類を金銭に換算し、支援金と合わせるとエマウスの年間の資金の動きは数億円になる。エマウスでの体験とスウェーデンの国としての支援の姿勢を学んだことは、その後のTAAAの活動の原動力になったと思う。

ストックホルムの南アフリカ民族会議（ANC

C) 事務所も訪ねた。日本では、小さな一部屋に代表のマツイーラさんと日本人のスタッフが1人いて、それを労働組合の連合の資金が支えていたのだが、ココスウェーデンでは、数部屋あり、10人位のスタッフが働いていた。東京のANC事務所の貧しさが日本人の意識の低さを表しているような気がした。(つづく)

**ルイボスティのご紹介**

南アだけで取れる健康茶ルイボスティをご購入いただきますと、売上の一部が TAAA に寄付されます。

1箱 80 パック 2000 円(送料一律 500 円)

(5 箱以上 送料無料)

1パックでヤカン一杯のお茶が飲めます。

お申込みはP12のTAAA連絡先へ

# ある日の作業

下谷 房道

5月14日、恒例の月1回のパッキング作業の様子を報告する。作業場の横には、南アへの出港を待つ移動図書館車「はるかぜ」号。実はこの移動図書館車の駐車場が確保できていないことが大きな問題になっているのだが、ここでは話を先に進めよう。筆者が会場に行くとお金の周りに3つの頭が集まってなにやら計算している。会の代表の野田さんと副代表の浅見さん、新たに会計の仕事も引き受けた西村さん。会計は神経のいる仕事だ。ご苦労様。お金の周りに吸い寄せられる頭数が増えていく形で人数がそろってくる。みんなに見られては計算もやりにくい。西村さんの「さあ、仕事、仕事！」という号令のもと、今日のパッキング作業が始まった。

本は大きさごとに数を数えて、重さを量ってパッキングしなおす。長年やっていると量らなくても重さが分かるがと豪語するのは副代表の浅見さん。本当だろうか？百科事典などのシリーズものはそろわないことがあるのだが目を光らせて見つけてしまうのが北爪さん。パッキング作業初めてという常見さんはとても丁寧に本を詰めている。今度夏休みに南アへ行く予定の米山さんは、子供向けのいい本を見つけ、自分で持参して渡してくることにするという。山下さんは昨年9月に南アを訪問されて写真をとってこられた。野田さんはいつものようにすべて取り仕切って大忙し。みんなまじめに仕事しているので写真でも取ろうか。浅見さんの提案でハイ、ポーズ。

## [追記]

下谷さんも、副代表の浅見さん同様、TAAAの発足当時から活動に参加して、会を支えてくださった方の一人です。いつも穏やかなお人柄ですが、TAAAマラソン部(部員:2名)に所属し、フルマラソンもこなしてしまう強靱なパワーの持ち主。今回の作業では、いちばん離れている第3倉庫より、たくさんの本を作業場まで運んでくださいました。(西村裕子)



左後:山下、西村、浅見、米山、下谷、前列:北爪、野田、常見



## 本が南アへ届くまで

この2年間、本は1年に一度、まとめてコンテナで送り出しています。7月には、学校法人河合塾の呼びかけで、全国の高校などから英語の本が送られてくることになっています。すでに作業場には数

百箱のダンボール箱が輸出を待っています。毎月一回、日曜日に集まって、送られてきた本の箱を一度開いて、大中小に分け、2重のダンボールに詰め直し、キロ数と冊数を記録します。商船三井の船が決まると運送トラックが荷を引取りに来ます。インド洋を越えて一ヶ月ほどで、南アのダーバン港に到着します。

◆ 主な活動 (2006年1月16日～2006年5月15日) 下線は南アにおける活動1/25 KZN州向け4台南アで通関完了1/27 フリーステート州より移動図書館運行確約書受領

蓮沼忠さん

1/27 ダーバンのNGO/ELETで会議 平林薫1/30 ELETにて会議 平林

1/30 岩槻市図書館訪問 寄贈依頼 北爪健一

1/28 練馬光が丘図書館へ引取・引渡し式 浅見克則  
北爪健一 野田千香子

1/29 本を作業場へ運送 西村裕子 野田

1/25～2/5 会報40号編集校正 野田 西村

2/3 本を倉庫へ運送 北爪

2/8 ンドウエドウエ小・中・高校訪問 平林

2/12 作業と会議 西村 浅見 関根章博 野田

2/13 入間市移動図書館引取り 北爪

2/14 練馬車を工場から駐車場へ 浅見

2/18 宮代町図書館車引取り 北爪

2/20 会報40号郵送 大久保ふみ 野田

2/21 会報40号ホームページにアップ 近藤信幸

2/22 ELETにて会議 平林2/24 西ケープ州向け車ダーバンで通関完了

2/27 ブログ更新 野田

3/2 ダンボールを作業場へ搬送 浅見

3/2 会計打合せ会議 安部弥生 野田

3/5 作業と会議 西村 北爪 下谷房道 野田  
米山周作3/6～15 MEIの移動図書館に同乗 蓮沼さん3/8 ELETにて会議 平林3/9 河合塾より宮崎敦子さん・井上慎一さんが見える  
会議 野田

3/11 宮代町移動図書館車を作業場へ移動 浅見

3/16 南アダーバンへ着任 武藤豊

3/26 会議 野田 浅見 西村 下谷 関根

3/27 埼玉県国際交流協会 NGO ネットワークでTAA  
AAの活動について講演 野田

3/29 ELETへ送金 野田

3/30 MEIへ送金 野田

3/20～4/10 会計 安部

3/31 KZN教育省にてンジマンデ氏、ルビン氏と会  
談(4台引渡し式について) 蓮沼さん

4/2 会議 浅見 野田

4/4 練馬陸運局へ書手続き 浅見

4/5～7 マルチメディア e-教育総会で移動図書館  
の話 蓮沼さん

4/8 HPへ南アニュース掲載 平林薫 近藤

4/8 大阪府和泉市移動図書館車を埼玉へ回送 浅見

4/9 作業と会議 関根 大井幸子 米山 浅見  
野田

4/19 仮ナンバー申請 浅見

4/19 NECソフト株式会社主催 カンボジア活動  
講演会 丸岡晶 野田

4/22 横浜市中央図書館車引取り 浅見

4/22 和泉市車を工場より駐車場へ 浅見

4/22 AJF主催南ア講演会(アジ研牧野久美子さん)  
野田 米山

4/24 仮ナンバー返済 浅見

4/24 ウムズンベの学校訪問 平林 武藤

4/30 4台に寄贈プレート取り付け 浅見

5/3 会計・会報編集打合せ 西村 野田

5/5 ントウズマの小学校訪問 平林5/8 全国読書プログラム式典(車4台引渡し式)南ア教育大臣、商船三井の友田さん列席

蓮沼さん 平林

5/8 AJF事務局橋場さん 野田宅へ 野田

5/10 JVC南ア現地代表津山直子さんと国内南ア  
担当渡辺直子さんと話 野田 米山

5/12 JVC津山さん南ア講演会 米山 野田

5/12 南部アフリカを支える会の友深雪さんと話  
す 野田5/14 作業と会議 浅見 西村 下谷 北爪  
米山 常見佳代 山下八千穂 野田

## お知らせ

### ★ TAAA/平林薫を囲む会

6月26日(月) 18:30～

アフリカ日本協議会事務所(AJF)にて  
東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル2F

電話:03-3834-6902(申込み不要)

JR上野駅6分(御徒町との中間) 昭和通りを越  
えて2本目の通りコンビニの隣のビル

### ★ TAAA南アフリカ活動報告会

講師:平林薫 共催:NECソフト株式会社

7月5日(水) 18:30～

NECソフト本社ビル 11F(新木場駅前)

申込み: Eメール・FAX・ハガキなどに

郵便番号・住所・氏名・フリガナ・電話番号を書  
いてお申込み下さい。

〒136-8627 江東区新木場1-18-7

NECソフト本社総務部法務・CSR推進室

TAAA 南ア活動報告会係 星野様あて

Tel:03-5534-2211 fax:03-5534-2684

e-mail:sc@necsoft.com